

## 令和7年度 金沢市森づくり市民会議（第2回）

日 時：令和7年11月21日（金）9時30分～11時00分

会 場：金沢市役所第二本庁舎3階 大研修室

出席委員：大河原委員、北村委員、黒氏委員、小杉委員、近藤委員、西多委員

前委員、水越委員、柳井委員、横山委員

事 務 局：紙谷農林水産局長、青山森林再生課長 ほか9名

### 【次第】

1 開会

2 挨拶

3 会長あいさつ

4 議題

（1）次期・金沢の農業と森づくりプラン骨子案について

（2）その他について

5 閉会

### 【議事録】

事務局より説明

（1）次期・金沢の農業と森づくりプラン骨子案について

（会長）

議題1について意見はないか。

（委員）

森林に親しむ活動推進と、クマの住み分け対策はどうするのか。森林だけでなく街中への出没、畑作業中の場所への出没も散見されるため、山に入りにくい。問題無く森林へ親しむ活動や、森林に関する作業が行えるのか。住民が安心できるような生息頭数調査、監視カメラ対策、情報発信強化を講じてほしい。

プランアンケートの中でNPO団体からの意見で活動の場所がないという結果があった。活動しやすいように地域連携や場所提供の仕組みづくりをすべきでないか。

市営造林については、土地所有者の意見を十分に反映させて主伐後の再造林100%をしっかりと達成できるように努めるとともに、地域材、特にスギ材の活躍の場を広めるような企業・研究機関とのタイアップを進めてほしい。

（事務局）

クマについて、特に東北等で出没、里山・都市部への移動が増加していることは承知して

いる。金沢市では防災メールなどでの注意喚起や職員、獣友会による現地確認・パトロールを強化しているところである。プラン骨子案でも申し上げたが、個体数管理の環境整備として檻の設置台数を増やすこととしている。A I カメラ、監視カメラについては県で先行しているため県と歩調を合わせて進めていきたい。

N P O 団体への場の提供については、現在開館を進めている東浅川の拠点施設をハブとして土地所有者とのマッチングについて検討しているところである。

主伐・再造林については、地権者の意向によるところが多いため、市からの働きかけや補助制度などの周知を図って対応していきたい。

(会長)

クマについて何か意見はあるか

(委員)

石川県内ではクマは今のところ大きな被害は見られないが、森林管理と関係が密接であるとされている。間伐など樹木への対策よりも道路沿いへの緩衝帯整備によるヤブの刈払いが人と獸がお互いに視認できるため、接触を減らす対策として効果的であり、これによりクマの進行阻害を期待したい。放置果樹管理についても継続してほしい。

主伐・再造林について、花粉症対策とは何を指すのか。

(事務局)

花粉症対策としては、現行の市営造林の主体であるスギを減らすことを指している。しかしむやみに減らすというのではなく、県や国が研究している無花粉・少花粉・低花粉スギといった対策に資する新たなスギ品種の導入を再造林では進めていくこととしている。エリートツリー花粉症対策スギなどはまだ十分な生産体制が整っていないが、地権者への働きかけや適切な補助制度などを進めていければよいと思う。

(委員)

プラン骨子案には担い手育成確保、木育推進など人材が大きく影響する事業が多い。林業大学校ではいろいろなことを学び、様々な志をもった卒業生が多くいるが、実際のところ就業しているような人が少なく、O B の活躍場所が少ない。卒業生は一般の方よりもチェンソーや草刈機、バックホーなど特殊重機の免許も保有しており高いレベルでのパフォーマンスが提供できるため、これら人材の活用ネットワークづくりを行ってほしい。

(会長)

貴重な意見であると思う。事務局から回答はあるか。

(事務局)

卒業生は2年間しっかりとカリキュラムを受講し、レベルが高い人材であると認識している。現状でも市のイベントなどでも率先して手伝っているもらっているが、加えて来年度以降は東浅川の拠点施設に市と林業大学校が同じ建物にいるため、さらなる密接な連携が可能と期待している。

研修生、修了生の技術の活かし方について、拠点施設に就業支援の場を設けるなどして進めていきたいと思う。卒業生への声かけを進め、より活用させていただきたい。

(事務局)

補足すると、拠点施設を活用した卒業生、研修生の活躍の場を提供すると共に、卒業生同士の連携を深め、協力体制を敷くなどの組織化の手法や、卒業生のリスクングも進めたいと思う。加えて、一部予算要求中のものもあるが、林業や木育の可視化を検討している。現状でも公開講座があるが、もっと林業や木育を目に見える形にしたいと思っている。この事業の際には卒業生や研修生にお声かけさせていただければと思う。

(委員)

全市営造林のうち林道があるなどして木材の搬出が可能な場所はどの程度あるのか、haあたりどれだけの材積があり、建築に使用可能な木材がどれだけあるのか、また、原木価格と製品価格の差を埋めることであるが、林業先進地（他県）との比較はしたことがあるのか、これらに応じた補助金の金額設定が必要ではないか。

(事務局)

人工林の搬出については林道のアクセスが大きな経済的な要素となる。林道の無い箇所は経費ばかりかかり経済的ではない。しかし一方で間伐することで土砂流出対策や、崩壊防止などの環境に適した森林へ移行するような方策もある。

1haあたり材積については標準としては500~700m<sup>3</sup>/haとなっている。場所によって異なるので一概に言えない。金沢市産材では柱になるようなA材は少ないとされている。

原木価格・製品価格の他県との比較は聞き取り程度である。

(事務局)

これより先は意思形成過程段階のものとなりますので、非公開といたします。申し訳ありませんが、報道関係の方々はご退席をお願いいたします。

— 以下、意思形成過程段階となるため非公開 —